

今回の子育て特集では田布施町の『家庭教育支援チーム』をご紹介します。『家庭教育支援チーム』は子ども達の居場所づくりや自立に向けての支援を行っています。『宿題、課題を一緒に取り組む』『スポーツを一緒にする』『自然体験を一緒にする』といった活動を行っていくことで、子ども達に寄り添った活動を展開しています。

そこで『家庭教育支援チーム』の一員で『スクールソーシャルワーカー（以下SSWとする）』の中村さんに①『SSWになろうと思ったきっかけ』、②『SSWとして接するとき心がけていること』、③『家庭教育支援チームの一員としての活動内容』、④『家庭教育支援チームをやってきてよかったこと』の4点についてインタビューしました。



▲『たのじ』会議の様子

① 未経験の児童分野に挑戦してみた
と思ったからです。

子どもの最善の利益のため活動するところと惹かれました。また、SSWは困っているところに、どこへでも飛んでいく、そこに魅力を感じてチャレンジしてみようと思えました。

② 『第一印象』『ワンダウンポジション』『傾聴』を特に大切にしています。話をしているときの印象が一番相手に伝わるのは言語情報や聴覚情報よりも見た目から受ける視覚情報が大半を占めています。身なりをきちんと整えたり美しい仕草を心がけたりすることは、自分が訴えたいことをストレートに相手に伝える第一の手段で、相手に与える印象を意識的に変えることで、自分の話をスムーズに聞

き入れてもらえるきっかけになるので、特に気を遣っています。

その他にも相手より一段下の立場を取り、謙虚な態度と行動をとる『ワンダウンポジション』や相手の話に心を寄り添い、相手の話を熱心に聴く『傾聴』にも気を遣いながら活動しています。

③ 支援員の皆さんと同じ活動をしていきますが、学校、関係機関、保護者との効果的な連携について話し、困難なケースの対応などを行っています。

④ 『家庭教育支援チーム』としての活動歴は浅いですが、チームの皆さんに支えられ、楽しく活動できているところです。毎月『たのじ』会議に参加すると、懐かしい我が家に戻ってきたかのようにホッとします。

また、SSWとして関わった子どもやその家族が笑顔で過ごせているのを聞くと嬉しく思います。大変ですが、頑張ってきてよかったと思います。

ただ、上手くいくケースばかりではなく、心が折れそうになることもあります。ですが、できる理由・やれる人・良いところを探したり、

ピンチはチャンスなどと発想を転換し、ポジティブに考えるようにしています。



▲活動の様子（子育て支援講座）

『子どもが学校に行きたがらない』『子どもが言うことを聞かない』。注意すると暴れる』など子どものことや家族のことなどで困ったときには『家庭教育支援チーム』に相談してみませんか？

解決に向けてともに歩んでいきますので、気軽にお問い合わせください。